

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和2年度学校評価計画

達成度(評価)	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	吉野ヶ里町立東脊振中学校
-----	--------------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 学力向上については、今後、「話し合う活動」の中で、基礎的・基本的な知識を活用し、対話的に学んでいく場面を単元の中に設定することが大切である。 部活動については、昨年度12月に「部活動に係る活動方針」を定め、適正な活動が行われるよう、職員の間で共通理解を図ってきた。今後も毎月の活動計画及び活動実績を作成し、部活動の充実を図る。 業務改善・教職員の働き方改革の推進については、次年度も、長時間労働の解消、健康管理体制の充実等の課題について具体的な改善策を検討し、職員の間で共通理解を図る。 不登校対策については、週1回実施している教育相談部会、月1回実施している「不登校生徒支援ネットワーク連絡会」において、情報交換を密にし、対応を協議してきた。次年度も教育相談部会や連絡会の充実を目指し、SC、SSW、外部機関等と連携をとりながら支援を継続していきたい。
------------------	--

2 学校教育目標	未来へ ～ 夢や目標をもち 共に高め合う生徒の育成
----------	---------------------------

3 本年度の重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 確かな「学び」を鍛える～新学習指導要領がめざす授業改善、特別な教科「道徳」の取組の推進 豊かな「心」を鍛える～なりたい自分像を考えさせる生徒指導の徹底【東中三訓、道徳・人権教育、部活指導】 健やかな「体」を鍛える～生き生き部活動の推進、生活習慣の確立、命を守る登下校指導の徹底 教師集団の「組織力」を磨く～全職員の学校運営への参画、働き方改革の推進 生徒を取り巻く「環境」を整える ～ 不登校対策の推進、特別支援教育の充実、危機管理体制の確立
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価	
---------------	------	--------	--

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
重点取組			具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
評価項目	取組内容	成果指標(数値目標)								
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上	・教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修等により取組の促進を図る。							
	○学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践	○「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができると思う」と回答した生徒80%以上	・「授業づくりのステップ1・2・3 Vol.2」を踏まえ、全教科半分以上の授業で「話し合う活動」を設定する。							
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした生徒80%以上	・人権講演会(人権集会)や道徳に関するアンケートの実施 ・道徳科の授業づくりに関する校内研修等の実施							
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)について組織的対応ができていると回答した教員80%以上	・いじめの認知・覚知に対する対応マニュアルを作成・見直しを行う。 ・きめ細やかな実態把握に努め、いじめの未然防止、早期発見、早期対応の徹底を図る。							
	○生徒行動目標「東中三訓～挨拶、時間、清掃」の実践	○挨拶ができる生徒を80%以上にする。 ○時間を守り行動できる生徒を80%以上にする。 ○時間いっぱい、一生懸命に掃除をしている生徒を80%以上にする。	・全校、学年、学級、部活動などすべての教育活動を通じ、習慣化を図る。 ・学校行事や体験活動に向け、集中した取組を行う。 ・常に教師が清掃場所に立ち会い、清掃に率先して取り組み、生徒に達成感を味わわせるとともに掃除への意欲を高める。							
	◎自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進	◎将来の夢や目標を持つ生徒が、80%以上をめざす。(中学3年)	・全ての教科等、学校行事等を通して、夢や目標について自ら考えさせる時間や場面を設ける。							
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	○「健康に食事は大切である」と考える生徒80%以上	・毎月1回、保健だよりやアンケートを通して朝食をとることの意義の理解と啓発を行う。 ・家庭科や学級活動の授業を通して、朝食の大切さを再認識させる。							
	○健康や体づくりについて意識づくりの促進	○部活動や社会体育、文化活動に積極的に取り組む生徒を80%以上にする。	・部活動の顧問を複数体制とし、常に臨場指導を行う。 ・部活動や社会体育、文化活動の意義を踏まえた指導と適正なあり方について、保護者会と連携を図る。							
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外勤務時間の上限を遵守する。	・定時退勤日の設定 ・学校閉庁日の設定 ・長期休暇を生かした、夏季休暇5日の完全取得と年休5日以上完全取得							
	○より適正な部活動の推進と健康管理体制の充実	○教育委員会が示すガイドライン「部活動活動方針」に基づき、適正な部活動を旨とする。 ○教職員のメンタルヘルス対策を推進する。	・部活動の休養日を「部活動活動方針」に定め、実施を徹底するとともに、保護者に周知する。 ・管理職は時間外勤務が多い教職員に対する産業医(学校医)による面接を奨励する。							

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
重点取組			具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)								
○不登校対策の推進	○不登校及び不登校傾向の生徒に対する体制づくりの促進	○教育相談主任を中心に「つなぐ」働きかけをキーワードに、全職員が共通理解したうえで、不登校の生徒や家庭に働きかけることにより、不登校生徒の縮減を図る。 ○新たな不登校生徒を出さないための未然防止に努める。	・「電話作戦」や「担任+1の家庭訪問」、保護者同伴の「別室登校」など、保護者と話をする機会を積極的に作り、保護者の意向を聞きながら、チームで対応していく。 ・進路学習にも取り組み、将来に向けての見通しをもたせるように努める。 ・学校適応指導教室や関係機関との連携を図る。							

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・
----------------	---